

自転車安全教育プログラムの検討 - 関前コミセンにおける GW -

○橋本 修左 1)、谷田貝 一男 2)、高柳 京征 3)、今田 和貴 3)

1) 武蔵野大学人間科学研究所、2) 自転車文化センター、3) 武蔵野大学人間科学部

1. はじめに

「自転車安全教育プログラム」の GW 事例による検討結果について報告してきたが^{1~3)}、いずれも武蔵野市、中野区鷺宮地区、葛飾区などの比較的大きな地域を対象としたものであった。しかし、より対象地域を限定してコミセンが管轄している「町」規模の地域に絞って、その住民による GW を実施する場合には、土地事情をより熟知する参加者のために GW がより容易になるのではないかと考えられた。また、このような「町」規模を対象とした GW 実施で今までと同様の結果が得られるのかどうかについても検証しておく必要があると考えられた。そこで、以下のようなことを目的として検討したので報告する。

2. 実施目的

今まで GW で検討してきた自転車安全教育プログラムについて、コミセン管轄区のように小さな「町」規模でも有効であるかを検証する。

3. 実施方法

3-1. 対象地域

武蔵野市関前 1~4 丁目を中心とした関前コミセンの対象地域。

3-2. 実施日時

2014 年 10 月 9 日(水) 14:00~16:00

3-3. 参加者

上記地域に居住して日頃自転車を使用している関前地区の「福祉の会」、PTA、コミセン等の関係者の方々を中心とした 30~70 才代の 19 名(男性 6 名、女性 13 名)である。

3-4. 実施方法

前報その 2. の GW 実施方法に従った。

4. 結果及び考察

4-1. 自転車走行危険度マップについて

2 グループの参加者がシールを貼って作成した自転車危険度マップを一つにまとめて図 1 に示す。この図において、赤印は自転車、青印は歩行者の立場から見た危険指摘箇所である。また、危険な理由として、交差点や十字路などの「出会いがしら」、信号無視や一時停止しない等のマナー違反に集中し、過去に作成されたマップと似た箇所が多く指摘され、全体の約 3/4(32/44)を占めた。しかしながら、参加者が地域を

熟知しているが故に、必ずしも交通量が多くない道でも危険箇所として指摘された箇所も多く見られた。



図 1. 作成された自転車走行危険度マップ

指摘された地域特有の危険箇所と思われるいくつかの事例について以下に記す。まず、危険度がきわめて高いと指摘された五小通りと南小南通りの交差点の写真を写真 1. に示す。ここは一方通行路が向き合う少しずれた十字路であり、車両通行量が少ないにも拘わらず信号が非常に多くて信号の見落としや無視される可能性が高い。自転車専用信号や短い横断歩道信号はほとんど守られず、信号が多くあるが故に危険だと思われる、信号の整理が必要だと思われる。



写真 1. 危険度の高い五小通りと南小南通りの交差点

また、井之頭通りの浄水場脇にある少し高い遊歩道は多数の歩行者が利用しているが、道の反対側歩道を利用する歩行者がほとんどいないため疾走自転車

の通り道となっている。そのため、植込等により視界の遮られた横道から通りへ飛び出す車両や歩行者との出会いがしらの事故危険が多く指摘された。

4-2.危険の内容と対策について

自転車危険度マップの作成・討議の過程で記入された「危険の内容」と「改善方策」に関する KJ カード、及びGWの終わりに実施したGWアンケートをもとに内容を KJ 法により分類整理してカテゴリー別にラダーリングして集計したものが図 2.である。

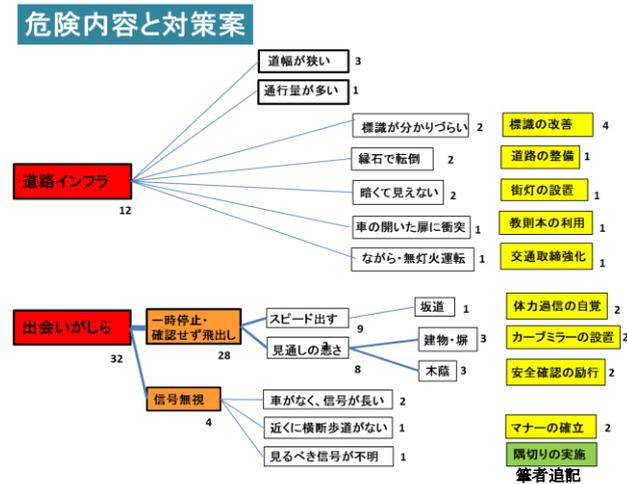


図 2.危険内容と対策案のまとめ

図中において左側欄にあるものほど上位のカテゴリーを示し、右下数字は記載カードの枚数を示す。また、右端の黄色欄は提案された対策案を分類・集計したものである。また、今回の GW アンケート結果から参加者の半数以上が居住地域における危険箇所についての情報を希望し (9/19)、半数以上の参加者がこの GW プログラムを積極的に評価した(10/19)。

4-3. 日常自転車走行する道について

GW 参加者に普段自転車走行する道を記入して頂いた地図上ルートを集計したものが図 3.である。



図 3. 日常自転車走行する道

この図から、自転車利用者は道路幅員が狭くて交通量が多い幹線道路である五日市街道などは極力敬遠して、並行する生活道路を迂回路としてよく利用していることが分かる。これらの道の東側先は歩行者が多い商店街に直結していることでもあり、日常利用する生活道路の整備は急務であると思われる。国道や都道の整備は容易ではないが、生活道路のような「市道」であれば、地方自治体である市の権限範囲内でもある程度の対策を早急に実施をすることは可能であると思われる。

5. 考察と今後の取り組み

いままで取り組んできた自転車安全教育プログラムで常に問題となったことは、いかに多くの居住者にこの GW 参加して頂くかということである。しかし、今回、対象地区の規模を「町」=コミセン規模程度に絞るこむことによって、地域の道路事情を熟知した居住者の参加が可能となり、一層充実した討議が可能であった。また、得られる詳細かつ具体的な情報を基に自転車安全走行問題を身近な自らの街の具体的な問題として捉えて戴けることも明らかになり、コミセンを単位とする GW 活動は今後の成果展開において有効と思われる。

今回、GW を中心とした「自転車安全教育プログラム」の有効性をコミセン規模でも検証できたので、これらを取りまとめて、平成 24~26 年度科研基盤研究 B「安全な自転車利用促進を目指す循環型社会の新しい交通システム構築のための基盤研究」における研究成果のひとつとして今後普及、展開を図ってゆきたい。

<謝辞>

今回調査に協力頂いた関前地区の居住者、関前コミセン関係者の方々、及び武蔵野市役所市民部の安藤雅美氏に謝意を表します。

<参考文献>

- 1) 中島星司、櫻井健有、谷田貝一男、橋本修左:「自転車利用者に対する安全教育の在り方に関する研究」第 42 回人類動態学会東日本地方会 2-1 (2013)
- 2) 櫻井健有、中島星司、谷田貝一男、橋本修左:「自転車の安全通行問題と道路環境に関する研究」第 42 回人類動態学会東日本地方会 2-2 (2013)
- 3) 橋本修左、谷田貝一男:「武蔵野市における自転車走行実態の調査」第 49 回人類動態学会全国大会 (2014)

----- << 連絡先 >> -----

橋本修左
 武蔵野大学人間科学研究所
 〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3
 電話 03-5530-7454
 FAX 03-5430-3822
 E-mail: sh_hashi@musashino-u.ac.jp